

国際婦人年連絡会

世話人 橋本 紀子

前田 佳子

城倉 純子

## 少人数学級の早期実現と深刻な教員不足を解消する施策を

### 早急にとってください

国際婦人年連絡会は、女性の地位向上、ジェンダー平等の実現をめざし、全国組織 34 団体が結集し活動しています。本会は国連経済社会理事会(ECOSOC)への諮問資格を与えられています。

教員不足の深刻な状況が続いています。「担任の先生が見つからないため自習が続いた」「複数の学級の授業を一人の教師で行っている」「しわ寄せを引き受けてきた教師が倒れ、さらに先生が足りなくなる」といった悪循環が、日本中の学校で起きています。これは、子どもたちの教育を受ける権利の深刻な侵害であるとともに、多くの教師は健康も保障されない労働条件下におかれているということです。

ある保護者は子どもから、悩みを相談したいのに先生は大変だから我慢しているのだと打ち明けられました。国立成育医療研究センターが 2021 年 12 月に調査した「コロナ×こどもアンケート」によれば、16%の子どもが中等度以上のうつ症状をもっていました。コロナ禍以降、不登校の増加や自殺者の高止まりなど、子どもたちへのケアの必要性が高まっています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの教育相談体制の充実とともに、教職員が一人ひとりの子どもにいていねいに向き合い、共同して対応できるようなゆとりを持った人員配置にすることが必要です。

教師の長時間過密労働は誰もが知るところとなりました。全日本教職員組合(全教)が 2022 年 10 月に行った勤務実態調査によれば、1 か月あたり平均 92 時間 34 分の時間外勤務をしているという結果でした。しかも学校によっては教員の半数近くをしめている臨時的任用教員は、正規教員と同じように担任も分掌も受け持ちながら、より低い給与と処遇で働いています。教職の魅力を発信しようと始まった SNS 内の #教師のバトンでは、現場の教師たちの働き方に対する数多くの悲鳴が投稿され続けています。ケアを必要とする子どもたちが、過労死ラインで働き疲労した教師に相談することをためらうことや、教育に夢と意欲を持った若者が、そんな教師の働き方を見てあきらめるようなことは、今すぐにも改善しなければなりません。

そのためには、少人数学級を早急に実現すること、それに見合った教員定数を実現し、教育活動を活発化させることです。

以下について要望します。

#### 記

- 一、過労死ラインと言われている教員の働き方を早急に改善する施策をとってください。
- 一、小学校から高校まで、少人数学級の実現をさらに促進してください。
- 一、「臨時的任用」教員を正規化してください。
- 一、新規採用者は正規採用としてください。